

2024年度 登録建築板金基幹技能者講習試験

(九州ブロック)

1 年月日 2024年10月17日

2 会場 サンメッセ鳥栖

3 試験時間 60分

4 問題数 30問(四肢択一式)

5 注意事項

- (1) 係員の指示があるまで、問題を開かないで下さい。
- (2) 解答用紙に、所属組合名・受講番号・氏名を必ず記入して下さい。
- (3) 係員の試験開始の合図で始めて下さい。
- (4) 正解を一つ選択して解答して下さい。二つ以上解答した場合は誤答となります。
- (5) 解答は、必ず解答用紙に記入して下さい。
- (6) 携帯電話は、試験前には必ず電源を切って下さい。
- (7) 質問がある場合は、速やかに挙手して係員の指示に従って下さい。
但し、試験問題の内容や漢字の読み方等に関する質問には、お答えできません。
- (8) 試験終了時刻前に退席する場合(試験開始から30分経過後より可能)は、挙手して係員の指示に従って下さい。
トイレ等の一時的な離席も同様です。

終了の合図があったら筆記用具を置き、係員の指示に従って下さい。

科目: 登録基幹技能者制度の意義と役割

問1	OJT教育を行う上で、教育目標を設定するために重要なポイントについて、次の記述のうち誤っているものはどれか。
答イ	部下が意欲を持って取り組めるものであること。
答ロ	目標は定量的で具体的であること。
答ハ	日常の仕事以外の時間を通じて行う個別の指導であること。
答ニ	目標は設定期間終了時に評価が可能であること。

科目: 施工管理と施工計画

問2	建設工事の特徴とは。間違っているものはどれか
答イ	受注一品生産である
答ロ	土地の制約を受ける
答ハ	自然に左右されない
答ニ	社会的制約を受ける

科目: 施工管理と施工計画

問3	施工要領書の作成上の注意事項の誤りはどれか
答イ	施工要領書は原則として工種ごとに作成する
答ロ	一般的に常識的な事項についても詳しく記載する
答ハ	施工方法はできるだけ部分詳細図、図面等を主体とし、わかりやすいように記載する
答ニ	図面には納まり、寸法、材料名称、材質等を記載する

科目： 工程管理

問4	バーチャートの作成手順に関する次の記述のうち、最初におこなうものはどれか。
答イ	全体工期を横軸に示す。
答ロ	全ての作業についての所要作業日数を算定する。
答ハ	全体工事を構成するすべての作業を縦に列記する。
答ニ	工期内に全体工事が完成できるように、計画した各作業の所要工期を図表の上にあてはめて日程を組む。

科目： 原価管理

問5	見積時に確認の必要のないものはどれか。
答イ	敷地の形状。
答ロ	設計図書、施工図。
答ハ	天候。
答ニ	施工範囲。

科目： 原価管理

問6	積算作業時の用語の説明として誤っているものはどれか。
答イ	設計図書に基づき建設物を構成する各部分の数量の計測・計算を行うことを「数量拾い」という。
答ロ	数量の積和を集計することを「値入れ」という。
答ハ	数量の拾い方については誰がやっても同じ結果になるようなルールのことを「数量積算基準」という。
答ニ	数量に限らず積算全般において定めたルールを一般的に「積算基準」という。

科目：品質管理

問7	作業標準書による施工品質の確保・向上に関する次の記述の中で誤っているものはどれか。
答イ	建設現場の作業は、その多くが技能者の個々の熟練や経験によって成り立っている
答ロ	施工品質を確保し、向上させるためには、可能な範囲で作業の標準化を図ることが必要である
答ハ	登録基幹技能者は作業標準書を熟知し、機会あるごとに施工チーム内にその内容が効果的に伝達されるようにしなければならない
答ニ	未熟練者や新規入場者に対しては、指導や指示は不要である。

科目：安全管理

問8	安全管理に関する記述で誤っているものはどれか。
答イ	登録基幹技能者は安全衛生管理体制、各種責任者とその職務、遵守義務などを理解し、元請業者の安全管理を実践面でサポートする必要がある。
答ロ	わが国における建設業の労働災害発生件数をみると、長期的には大幅に減少している。
答ハ	労働安全衛生法は昭和47年に、職場における労働者の安全と健康の確保と、快適な作業環境の形成を目的に定められた日本の法律である。
答ニ	建設業は、他産業と比べ労働災害発生率が低い産業である。

科目：安全管理

問9	墜落防止対策の記述として誤っているものはどれか。
答イ	高さが2m以下のところでの、足場組立・解体作業、鉄骨組立作業、足場上作業、屋根上作業、法面上作業等を行う場合、作業床の設置は不要である。
答ロ	足場の組立・解体作業を行う場合には、手すり先行工法の導入に努める。
答ハ	ローリングタワーを使用する場合、昇降設備、作業床及び手すりを設置し、作業時は脚輪のストッパーを掛け、作業員を乗せての移動は禁止する。
答ニ	はしごの正しい設置と使い方には、しっかりと固定し、はしごの上端を床から60cm以上突出させ、はしご上での作業は原則行わない、物を持って昇降しないなどがあげられる。

科目: そのほか

問10	建設業法令遵守ガイドラインのうち「当初契約」の定義で違反行為とならないものはどれか。
答イ	下請工事に関し、書面による契約を行なった場合。
答ロ	下請工事に関し建設業法第19条第1項の必要記載事項を満たさない契約書面を交付した場合。
答ハ	元請負人からの指示に従い下請負人が書面による請負契約の締結前に工事に着手し、工事の施工途中又は工事終了後に契約書面を相互に交付した場合。
答ニ	下請工事に関し、基本契約書を取り交わさない、あるいは契約約款を添付せずに、注文書と請書のみ(またはいずれか一方のみ)で契約を締結した場合。

科目: 設計・施工の考え方

問11	設計・施工上の役割の記述として誤っているものはどれか。
答イ	鋼板製屋根・外壁の設計・施工に関わる関係者として、設計者、総合工事業者、専門工事業者及び製品供給業者がある。
答ロ	構造耐力上の検討を含めた設計行為に対する責任は専門工事業者に求められる。
答ハ	専門工事業者や製品供給業者の側も、設計者が屋根や外壁各部の強度検討や安全性確認を円滑に行えるよう、仕様や強度データ等の各種技術情報を積極的に提供することが求められる。
答ニ	不具合が生ずる要因としては施工管理が適切でないことだけでなく、設計者と総合工事業者との間、総合工事業者と専門工事業者との間、専門工事業者と製品供給業者との間でディテールの共有が十分でないことも考えられる。

科目: 設計・施工の流れ

問12	鋼板製屋根・外壁に求められる性能を確保するために、各関係主体(設計者・総合工事業者・専門工事業者・製品供給業者)どうしで必要な役割として不適切なものはどれか。
答イ	協議
答ロ	承諾
答ハ	報告
答ニ	コスト管理

科目： 設計・施工の流れ

問13	建築物の風荷重算出に用いられる地表面粗度区分の説明で誤っているものはどれか。
答イ	I = 海面又は湖面のような、ほとんど障害物のない地域
答ロ	II = 田園地帯や草原のような農作物程度の障害物がある地域
答ハ	III = 樹木・低層建築物が多数存在する地域
答ニ	IV = 高層建築物(10階以上)が密集する市街地

科目： 設計・施工の流れ

問14	専門工事業者が行う資材養生方法の説明で誤っているものはどれか。
答イ	資材を地面に直接置くと水、汚染等により腐食の原因となりやすい。
答ロ	長時間屋外におく場合は養生シート等で覆うとともに結露に留意する。
答ハ	金属製品が異種金属と接触して接触腐食を起こさないよう、金属製品間には木材を挿入する。
答ニ	断熱材等の裏貼付きの材料は、塵埃が入り込まないようにメッシュシートで巻き込み養生する。

科目： 折板屋根の構法

問15	折板屋根の下地構法について、次の記述で誤っているものはどれか。
答イ	タイトフレーム受け梁の間隔は風圧力の大きさに応じて屋根材の強度検討を行い設定する。
答ロ	片流れ屋根では、一般部がより風を強く受ける部位になる。
答ハ	屋根上に設備機器等の架台を設置する場合には、その周囲に下地材を適切に追加するとともに、必要に応じて積載荷重を考慮した補強を施す。
答ニ	柱が屋根を貫通する場合には、その周囲に下地材を適切に追加するとともに、必要に応じて防水上有効な措置を施す。

科目：折板屋根の参考構法

問16	折板屋根の棟の納めについて、次の記述で誤っているものはどれか。
答イ	折板の棟側端部には、止面戸の取り付けその他の防水上有効な措置を施す。
答ロ	棟包みははげ金具や折板に直接留め付ける。
答ハ	棟包みどうしの重ね留め付け部は折板の山部に設ける。
答ニ	折板の熱伸縮等の影響を受ける恐れのある場合には、折板幅の伸縮を考慮した棟包みを用いる。

科目：折板屋根の参考構法

問17	屋根上付属物の取り付け方法の記述について、誤っているものはどれか。
答イ	雪止め金具の種類とその配置は、積雪荷重に対応したものとする。
答ロ	屋根上に設備機器等を置く場合は、屋根面に直に設置する。
答ハ	避雷針、避雷導線又は設備配管を設置する場合は、設置業者が定める方法による。
答ニ	這いどい又は分散管等を取り付ける場合は、その方法と間隔に留意する。

科目：吊り折板屋根の参考構法

問18	吊り折板屋根の下地構法について、次の記述のうち誤っているものはどれか。
答イ	壁側の梁位置は、内どい大きさを考慮して決める。
答ロ	梁の交差部は吊り金具を取り付けるために必要に応じて梁つなぎを設ける。
答ハ	けらば端部には、必要な下地を設ける。
答ニ	梁貫通部にはシーリングプレートを設ける。シーリングプレートは鉄骨に点溶接で取り付ける必要がある。

科目： 二重折板屋根の参考構法

問19	二重折板屋根施工の納まりについて、次の記述のうち誤っているものはどれか。
答イ	断熱金具は適切な試験によって許容耐力が確かめられたものとし、グラスウールの働き幅に合わせて取り付ける。
答ロ	断熱材はグラスウールその他これに類するものとし、下折板の上に隙間なく敷き込む。
答ハ	下折板の軒の出は見切面戸の取り付けや内部結露が発生した場合の排水を考慮して、外壁より50mm程度出す。
答ニ	上折板の端部は八千代立上げする方法がある。

科目： 設計・施工 立平ぶき屋根の参考構法

問20	下ぶき材の敷き込みについて誤っているものはどれか
答イ	野地板は曲がりや隙間がないように取り付ける
答ロ	野地板は墨出しを母屋上面に適宜に行い、墨出し線に添って曲がりなく張る
答ハ	野地板を仮留め程度の留め付けで敷き込む場合は、ふき材を直接母屋にねじ留めする必要はない
答ニ	ふき材を野地板に直接留め付ける場合は、野地板を構造耐力上有効なものとするともに母屋に確実に留め付ける

科目： 改修

問21	改修工事の設計・見積り時の屋根詳細の調査項目（共通）として、次の記述で誤っているものはどれか。
答イ	形状・勾配・材質
答ロ	ふき材の劣化度と作業への影響。
答ハ	胴縁の位置・通りの精度。
答ニ	軒先・棟・けらばの納まり。

科目： 設計・施工 立平ぶき屋根の参考構法

問22	下ぶきの工法(重ね)について誤っているものはどれか。
答イ	軒先と平行に敷き込み、軒先から上に向かって張る。上下流れ方向は100mm以上、左右長手方向は200mm以上重ねる。
答ロ	棟部は、下葺材を250mm以上の左右折掛けとしたのち、棟頂部から一枚もので左右300mm以上の増し張りを行う。
答ハ	谷部は、一枚もので左右300mm以上の下葺材を先張りし、その上に下葺材を左右に重ね合わせ、谷底から250mm以上延ばす。谷底は、ステーブルによる仮止めは行わない。
答ニ	壁面との取合い部は壁面に沿って250mm以上、かつ、雨押さえ水切上端部より10mm以上立ち上げる。

科目： 横ぶき屋根の参考構法

問23	横ぶきの取り扱いについて誤っているものはどれか。
答イ	ふき材の継手は製品供給業者が指定する方法でなくても良い。
答ロ	ふき材の継手の位置が同一箇所になると漏水の原因となりやすい。
答ハ	ふき材の割付は階段状にふく「ふき廻し」と市松模様にあく「千鳥ぶき」がある。
答ニ	屋根の仕様に応じた割付とする。

科目： 設計・施工 横ぶき屋根の参考構法

問24	各部の納めについて誤っているものはどれか
答イ	軒先は、唐草にふき材を引っ掛け、直接および吊子を介してドリルねじ等で固定する
答ロ	棟包みは、下地材に留め付ける
答ハ	谷は、谷板に屋根ふき材をつかみ込んで納める
答ニ	隅棟(稜線部)は、通し棟納め、差し棟納め又は嵌合立はぜ式カバー棟納めを原則とする

科目： 改修

問25	石綿障害予防規則では、スレート屋根の改修は石綿含有成形板の改修・解体工事として、作業区分「レベル3」に相当する対策を取ることが求められている。主な要点の説明として誤っているものはどれか。
答イ	石綿作業主任者の選任と作業者への特別教育を実施する。
答ロ	レベル3対応の防じんマスクや通勤等とは別の作業衣を着用する。
答ハ	既存スレートの切断等を行う場合は、乾燥化その他石綿粉じんの飛散防止対策を行う。
答ニ	廃スレートは専門業者に委託し、産業廃棄物として安定型最終処分場で処理する。

科目： 外壁の参考構法

問26	堅どい取り付け部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
答イ	鉄管等を用いた大きな堅どいは、構造骨組(鉄骨柱)から溶接で支持される。
答ロ	一般的な堅どいは外壁材を留め付ける胴縁を利用してねじ留め、もしくは溶接にて取り付けられる。
答ハ	外壁材が縦張りの場合、堅どいは下部に設けられる雨水柵の位置に合わせて横胴縁を利用して取り付けられる。
答ニ	外壁材が横張りの場合、横胴縁の位置と雨水柵の位置が異なることが多いので、その場合は所定の位置に堅どい専用の下地を配置しておく必要がある。

科目： 外壁の参考構法

問27	建具廻りの納めに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
答イ	建具の上枠では、雨水の吹き上がりを低減するために外壁材の外側にケミカル面戸を設け、状況に応じて水切りを併設することが望ましい。
答ロ	建具の上隈部分には横走りした雨水が縦枠に流れ込まないように、外壁材と建具に適切なシーリングを施す。
答ハ	浸入した雨水が継手部や土台部分より外部へ排水できるような構造にする。
答ニ	防水紙面と建具枠で止水ラインを形成する。

科目： 外壁の参考構法

問28	土台水切の納めについて誤っているものはどれか。
答イ	土台水切は十分な立上り寸法を設けるとともに通り良く取付ける。
答ロ	下地ボードを設ける場合、ボード端部の漏れを防止するために腰壁部分から少し上げる。
答ハ	外壁の防水紙は土台水切の下に取付ける
答ニ	水切どうしの継手は概ね60～100mm程度重ね、重ね内部にはシーリングを施す。

科目： 維持保全

問29	維持保全に関する用語の説明で誤っているものはどれか。
答イ	日常点検 = 対象物が日常運用されているときに可能な点検。
答ロ	定期点検 = 周期を定めず対象物を休止させたりして行う点検。
答ハ	保守 = 消耗部品の取り替えや汚れの除去等、対象物の機能の維持と耐久性確保のために行う作業。
答ニ	修繕 = 劣化又は陳腐化した部材・部品等の機能・性能・外観を現状あるいは実用上支障のない状態まで回復させること。

科目： 改修

問30	屋根の改修工事で、設計・見積り時の調査対象として、次の記述のうち誤っているものはどれか。
答イ	屋根の状態
答ロ	母屋の状態
答ハ	下地の状態
答ニ	基礎の状態